

令和3年度第1回防災プロジェクト会議

日時	令和4年1月18日(火) 午後2:00～午後4:00
場所	アミューあつぎ7階 アミュースタジオ
出席者	民生委員・児童委員、厚木市社会福祉協議会、あつぎ災害ボランティアネットワーク、(特非) ゆうかり障害者地域活動支援センターレザミ工芸、(有) いいづか生活介護 ajito、(社福) 野百合園相談支援事業所 まゆみ、(社福) すぎな会生活ホーム、厚木市障がい福祉課、厚木市障がい者基幹相談支援センター
<p>1. 開会 総合司会 厚木市障がい者基幹相談支援センター ・資料確認(次第、名簿、令和2年度第1回防災プロジェクト会議録、事務局打合せ内容と意見、要支援者等受入れ施設、令和2年度厚木市総合防災訓練実績報告集計表、避難勧告廃止のお知らせ、厚木市障害者地域生活サポート事業(要綱抜粋)、災害時支援 障害者アンケート(神奈川新聞記事)、防災対策チェックリスト及び防災対策チェックリストの手引き、簡易版、神奈川工科大学研修資料2部</p> <p>2. 議題 (1) プロジェクトの経過報告 厚木市障がい者基幹相談支援センター 令和元年度 ・防災対策チェックリスト及び防災対策チェックリストの手引き、簡易版作成 ・支援者向け研修会 令和2年度 上半期 ・防災対策チェックリスト及び防災対策チェックリストの手引き、簡易版完成 ・啓発事業 きょうされん 「星に語りて」災害映画上映会 下半期 ・第1回防災プロジェクト会議開催(11月5日) ・第2回防災プロジェクト会議開催中止(2月22日) ・事務局会議の内容を委員に送付 令和3年度 ・研修 令和3年8月4日 コロナ禍における災害対策 令和3年9月7日 防災・災害ケア基礎講座(公開講座) ・第1回プロジェクト会議中止(9月15日)</p> <p>(2) 事務局打合せ内容についての進捗状況と意見交換 厚木市障がい福祉課 (資料:事務局打合せ内容参照) 昨年度の災害の振り返りとして、震度1以上の地震が2406回あった。その中で、マグニチュード6以上が18回起きている。2000年以降の平均は、2200回位なので去年は、200回位多い。震度1以上の地震が、例年に比べて比較的にかかったという年になっている。昨年10月7日、22時41分千葉県北西沖を中心に、最大震度5強の地震があった。厚木市においては、震度4だった。厚木市は、幸い大きな被害が出なかった。 台風については、一昨年は無かった。その前が、台風19号。昨年については、台風が、2本来ていた。台風4号が、九州～関東地方を横断した感じだったが、思ったほど被害はなかった。</p>	

去年の7月に熱海の土砂災害があった。行方不明者合わせて27名。もともと土砂災害の警戒区域に入っていた所だった。盛り土に問題があったようだが、原因は究明中である。

懸案の事項の報告をさせて頂く。防災対策チェックリストの手引きの4ページ目を変更した。災害対策基本法の改定により、避難勧告は、60年間位使われていたが、去年の5月で廃止となり、避難指示に一本化された。厚木市のホームページにも改定したものが載っている。大きなトピックなので事務局の方で変更させてもらった。

事務局打合せ内容について（資料：事務局打合せ内容について参照）

昨年度作成した防災対策チェックリストの周知について

(1) 市内の障害福祉サービス事業所に周知する必要がある。

防災チェックリストを厚木市ホームページに掲載して、該当のホームページのURLをつける事によってメールで全事業所に周知をした。チェックリストの手引きの改定もあったので今年度中に市内の全障害福祉サービス事業所にメールで周知する。

(2) 避難者の受入れ先である地区の避難所運営委員会にも、防災対策チェックリストがある旨周知する必要がある。

昨年メンバーで、防災指導者経験者、あつぎ災害ボランティアネットワークから実際避難所に避難する場合に、地区の避難所運営委員会にも防災チェックリストがある旨、周知する必要があるとご意見を頂いた。

令和3年2月に自治会連絡協議会にて、市内に42ある避難所運営委員会委員長に防災チェックリストを配布し、公民館の課長会議で説明をした。

(3) 指定避難所で過ごすことができない場合、協定施設に移ってもらうことになるため、あらかじめ協定施設に防災チェックリストを配架しておけばスムーズに受付ができるのでは。

通常は、指定避難所の公民館、学校だが、そこにいるのが難しい障がい者は、協定施設に避難してもらうよう、施設と協定を結んでいる。前回の会議で、(社福) すぎな会生活ホームより、協定施設に防災チェックリストを置いておくと、障がい者が来たときに、ご自身で防災チェックリスト書いていただくと施設側も受け入れしやすいとご意見を頂いた。ついては、その準備をさせて頂いて、今年度中に29ヶ所最低3部を送付し、障がい者が来たときには、防災チェックリストを通して受入れしやすいようにしたいと考えている。

少し気になるのが受入れ施設の中で、飯山温泉旅館組合、東丹沢七沢旅館組合、厚木ホテル協議会である。あまり障がい者を受け入れることがないかもしれないが、協定を結んでいるので防災チェックリストを送ろうと思う。

(4) 民生委員と障がい者との接点がないので、防災対策チェックリストを民生委員が持参して訪問するのはどうか。

民生委員・児童委員から頂いた意見である。民生委員全員に3部位ずつ防災チェックリストを配布して、障がい者を訪問してもらうのか。障がい者を把握はしているが、付き合いはなかったりする。全員の民生委員に配る必要があるのか。例えば、公民館に20部位置いておいて、民生委員が活動している中で必要な時に、取りにいき、訪問に使ってもらうというやり方もある。何が一番いいのか。ある程度流れが決まったら、来年度、民生委員に配りたいと思う。

意見交換

- ・訪問しても拒否する人もいる。新しく入居されて、個人情報もわからないまま訪問するといきなり訪問して何と言われることもある。(一律に全員配ってお願いしますと言うよりは、関わりの中で必要なら渡す方が良い)
- ・コロナの状況では、無理である。
- ・以前高齢福祉課から119番のチェックリストを頂いた。それも配りきれなくて、公民館に段ボールが何個もあり、そこに入っている。公民館の職員にどうするのか聞いた事も

あった。あってもやらなくては、もったいないし、意味がない。(民生委員・児童委員)
⇒公民館に防災チェックリストを置いて、民生委員が必要な時に、公民館に取りに行くという流れで周知していく。

議事進行 厚木社会福祉協議会

(3) 委員の自己紹介及びコロナ禍での防災訓練の状況や課題について意見交換

- ・(社福) すぎな会生活ホーム
入所施設が主なところなので、防災訓練は、今日行っている。入所が二つあり、訓練は施設内なので、変更なく行っている。グループホームは、年に2回、ホームで火災があったと想定し、目の前の駐車場に避難することも変わらず行っている。利用者の動きは、かなり制限している。公共交通機関は利用しない、帰宅は中止にさせてもらっているが、防災訓練に関して、通常どおり行っている。
- ・(社福) 野百合園相談支援事業所まゆみ
園でもグループホームでも定期的に避難訓練を行っている。皆、防災訓練は慣れている。サイレンが鳴るとわさわさしだす。
- ・(有) いいづか 生活介護 ajito
身体障がい者の生活介護で、定期的に半年に1回は、防災訓練、避難訓練を行っている。
1年前に研修として、防災チェックリストを当事者に配布し、書いてもらった。避難場所がわからない方もいて、きっかけになった。普段から携帯版を持ち歩く方もいる。厚木市民以外の利用者もいるので、自分の地域はどうなっているのか情報を得る機会となった。
- ・(特非) ゆうかり障害者地域活動支援センターレザミ工芸
昨年度、日中の活動の場で、一人暮らしも多いので、改定される前のチェックリストをみんなで見入して試みた。どういう風に書いていいかわからない状況だったので、職員がついて記入した。他市の方も厚木市のチェックリストを使って、避難場所や薬の確認をした。
今年度は、コロナ禍で行っていない状況。最後に防災の研修をしようと思っている。コロナ禍でない時には、駅が閉鎖してしまったときは、どういう風に歩いていくか実際歩き、通所先以外の避難場所はどこか確認していたが、今年度は、なかなかできていない状況である。
- ・あつぎ災害ボランティアネットワーク
11月7日、アミューでボランティア団体の厚木市民活動ネットワークの発表会を行った。その際、危機管理課の方で、ハザードマップの配布状況も含めて、減災講座、避難の話を中心とし、私たちの活動のシェイクアウト訓練等を行った。
地域包括支援センターで来年度からチームオレンジの活動が始まる。19年度から活動しているが、行っていないところが多い。10ヶ所ある地域包括支援センターが中心となって、周りの人を集めて、認知症カフェ等を行う。人員も集めている。
- ・民生委員・児童委員
防災訓練が2年位行っていない状況である。防災訓練があるかないかもわからない。自治体からもお知らせがこない。風の便りという話でしかない。自治体を含めて横のつながりがない状態で、孤独に活動している状況である。目の不自由な方、身体障がいの方、車いすの方、精神疾患、認知症の方もたくさんいるので、そこをどうしようか。台風の時に、工藤が『助けに来てくれなかった』と言われた。台風の時は、外に出ると危ないので、家にいるように話をさせてもらった。その方は、目が不自由なので、災害は、なるべくメールでやりとりして『声をかけて下さい』と気遣いはしているが、なかなかうまく行かない状況である。皆さんはどういうふうな生活スタイルなのかと思いつつ、地域を周っている状況である。現在は、防災訓練はない。防災訓練の打合せ自体は、毎年行っているが、十何年のうち1回しか呼ばれたことはない。及川団地と妻田地区は、避難所が一緒なので、避難所運営委

令和3年度第1回防災プロジェクト会議

員会という名目で防災訓練の打合せをして、避難した時に、行った方がいいものとしてパーテーションを組んで、実際行ってみたことがある。避難場所が小学校3階である。体育館である。障がいの方をどうやって上げようかというのが、最初に考えるところである。外国籍の方もいるので、一番の課題である。

・厚木市障がい福祉課

避難所開設の担当である。小学校、中学校が、風水害や地震などで避難所を開設する必要があるとなった時に、開設する。今年度は、地区の訓練ができていない。来月に訓練する予定になっているが、内容は未定である。例年の内容は、防災備蓄倉庫、門、体育館の鍵の開閉の確認をする。これと別に危機管理課が主催で、ソーシャルディスタンスというところで、危機管理課がテントの組み立てと配置の訓練を例年行っていた。

・厚木市障がい福祉課

例年9月に行っている防災訓練は、コロナ禍の影響で、市全体としてはできていない状況である。その代わりに、2月までに、何らかの形でそれぞれの部で行おうとしている。市から自主防災隊にお願いしていることは、今年の2月までに、何か行えることをやって下さいと言っているところである。それによって、行うところもあれば、コロナ禍だから行わないというところもある。自治会によって判断が分かれている状況である。(資料：令和2年度自主防災隊訓練の実績参照) 令和2年10月18日訓練を行ったが、全ての自治会で行えていない状況である。令和3年度の方が2年度よりもやや、変則的である。

市の職員は、今年、何を行うのかと言うと、それぞれの所属している部が、部単位で行うことになっている。震度6強でマグニチュード7.3の地震が1月26日13:14に厚木市内であるという想定である。内容としては、要介護認定者5人、障害者手帳5人について、通常の避難所では、難しい状況になっている方を受け入れるための訓練、調整のシミュレーションを行うことになっている。更に、障がい福祉課の中では、協定施設の方から2つお願いをして、協定施設の担当者と一緒に避難者を受け入れる訓練を行ってみようかという話をしている。勤務時間中に行う予定になっている。

訓練とは別に、去年の台風とかの市の対応状況だが、大きなものは来なかったのが、職員が丸1日張り付いている必要はなかった。去年の8月にかなりの大雨が降った時があったかと思うが、その時に私は来た。場合によっては、障がい者から連絡があったり、避難所が開設されていれば、実際の受け入れ調整を行う担当になっているので注意していたが、幸い何もなかった。神奈川工科大学の研修でもあったが、電源確保がテーマになっていて、医療的ケアのある方や人工透析されている方、医療と電気の必要な方についての対策をどうするかというのが課題である。できることはしているが、まだまだ足りない状況なので、今後も考えなくてはならない。

・厚木市障がい者基幹相談支援センター

ゆいはあととしては、防災訓練はないが、厚木市保健福祉センター内では、毎年防災訓練を行っている。厚木保健福祉センター自衛消防隊として通報連絡、初期消火、避難誘導等の役割分担があり、通報訓練、消火訓練、避難訓練等を行っているが、コロナ禍で本年度はまだ、行われていない。

・厚木市社会福祉協議会

普段なら、市役所と合同で、災害ボランティア支援センターを立ち上げる訓練を毎年行うことになっているが、今年はできていない。2月26日に研修の一環として、登録してもらっている一般市民に協力してもらうための災害ボランティアセンターを立ち上げる訓練を行う予定である。

(4) 今年度の取組み内容について (資料：事務局打合せ内容参照)

(1) 地域の防災訓練に障がい者が参加しやすくなるには、どうすればよいか。

意見交換

・障がい福祉課

障がい者が、地域のイベントに支援者と一緒に参加してみる。最終的には地域の防災訓練に参加するのがゴールである。まずは、身近なイベントに参加をして自治会に慣れもらうのが主旨であるが、実際はイベント自体がない状況である。このような中で障がいの方が地域の防災訓練に参加していただくための方策はあるのか。自治会に障がい者が積極的な防災訓練の参加周知のちらしを回覧したことがある。そういったことはできるが。

・(特非) ゆうかり障害者地域活動支援センターレザミ工芸

レザミ工芸のネットワーク会議に自治会長に来てもらっているが、自治会のイベントに声をかけられた事はない。町のお祭りの参加の呼びかけはしてもらえるが、こちらから自治会にアクションを起こしたこともなかった。こちらからアクションを起こして、自治会のイベントに参加した方がいい。地域で顔を覚えてもらうことは、大事なことである。

事業所の周りの住民は、高齢者が多く、雪かきができなくて、メンバーが変りに雪かきをするとうメンバーが力があるので、助かるわと言われる。ここ2年はコロナ禍で行っていないが、毎週月曜日の午後に幸町界限ゴミ拾いをしていた。コロナ禍が落ち着いたら、次のステップとして自治会の防災訓練に事業所として参加できたらいいと思う。

・(有) いいつか生活介護 ajito

2年前に、この会議で、ボランティアネットワークの石井氏と知り合いになり、事業所の研修として、石井氏に来てもらって災害の備えの話をしてもらい、危機管理課にも来てもらう予定だったが、コロナ禍で1回目の緊急事態宣言が出る直前だったので中止せざるをえなかった。地域の自治会にも声をかけていたので、6、7人来てもらう予定だったが密になるということで、早めに中止をした。事業所から地域の方を呼びかければ来てくれると思う。自治会のイベントに参加をするのは、どこで行うかによる。利用者は皆車椅子である。ハード面を考えなければならないが、近くの公園であれば、事業所のイベントとして誘えばメンバーは参加しやすいと思う。自治会は広報は届けてくれるが、地域のイベントの参加の声掛けはない。

・(特非) ゆうかり障害者地域活動支援センターレザミ工芸

レザミ工芸の防災訓練として、三角巾や担架の使い方、炊き出しとしておにぎりをこちらで用意して、地域の方に食べてもらったりとコロナ禍の前までは毎年していた。地域の人から『この事業所きれいですよね』と言われるので、『毛布とかありますよ』と言うと、『家がつぶれた時は、ここがいい』と言われるので、『事業所の大家がこの近くに住んでいて鍵を持っているので、何かの時は、開けてもらっていいですよ』と言っている。

・(社福) すぎな会生活ホーム

地域のイベントは、土・日が多いので、グループホームとしてはその方が良い。炊き出しがあると職員が一緒に行って食べ物をもらって帰ってくる。また軽度の方でコミュニケーションが取れる方が多いので、地域の方と話をしている。令和2年度は、すぎな会で起震車を1台借りて、地域の方へも声をかけて、10人近くの方が体験をした。今年度は、コロナ禍で行っていない。自治会に入っているので回覧板で回ってくるが、地域によっては、回ってこない所もある。

・(特非) ゆうかり障害者地域活動支援センターレザミ工芸

数年前に、精神の通所の事業所が河原に集まって、起震車を呼び、消火訓練を行った。地域は入っていない。

・障がい福祉課

令和3年度第1回防災プロジェクト会議

地域の防災訓練について、どこでどんな訓練を行うのかは、危機管理課で情報を把握している。障がい福祉課の方から提供させていただいて、ある程度自治会と調整を取った上で、当日行ってもらう流れで仲立ちができると良いと思っている。

- ・あつぎ災害ボランティアネットワーク

ぜひ、お願いしたい。どういった訓練を地区でしたのか知りたいと市に聞いたことがあった。いろいろな手続きを踏まないとお見せすることはできないと言われて、そこで折れてしまった。

- ・障がい福祉課

市民が訓練の情報を知りたいと言うと行政文書の開示になり難しくなる。危機管理課の実績報告として、この自治会は、どこで、どのような訓練を行ったのかという一覧がある。それを参考までに配布し、自分の地域の自治会にアプローチをする場合に、障がい福祉課で調整に入っても良い。そんな取組ができると良い。コロナがない前提の話である。コロナもあって、啓発でチラシをまくのはなじまない。

- ・厚木市厚木市障がい者基幹相談支援センター 畑山

このコロナ禍で何をするのか。1月26日に市としては、防災訓練をすると聞いたが、自治会も含まれているのか。

- ・障がい福祉課

自治会は、2月までに適当な時期で防災訓練をやって欲しいと伝えている。やるところもあれば、やらないところもありバラバラである。

- ・(社福) すぎな会生活ホーム

1月の日曜日に防災訓練を行うと回覧が回ってきた。一ヶ所に集まって、玉川中学校に行く。それは、毎年行っていることである。でもコロナ禍だからどうなるかわからない。

- ・民生委員・児童委員

及川団地の防災訓練は、公園に集まって、がれきの中から人を助ける、三角巾の使い方、公園にある簡易トイレの説明、炊き出し、階段で搬送する時の訓練を行っている。障がい者が住んでいるところがあり、知的障がい、肢体不自由の下半身麻痺の方も積極的に見ていただいている。

- ・厚木社会福祉協議会

このように、情報提供していただきながら、進めていただけたら良いと思う。(2) 障がい者と地域の繋がりをつくるにはどうしたらよいかという課題があるが、これもイベント的になってしまうので、コロナが収束した後でどんな取り組みがあるのか。コロナ禍でもできる取り組みはあるのか。

- ・障がい福祉課

地域と繋がることによって、気分が上がったり、喜びを感じる障がい者はいるのか。

- ・(社福) すぎな会生活ホーム

知的障がい者は、コミュニケーションが苦手な方もいるが、地域の人と話をする方もいる。近所の方に挨拶してもらったり、『元気ですね』と声をかけてもらったりする方もいる。コミュニケーションは、ないよりはあった方が良い。利用者にとっても、この人はこういう人と何となくわかってもらえるのは大きいと思う。いつも職員が、一緒について歩いているわけではない。たまに一緒に歩いていると『この人はこういう人だったんですね』と話しかけてもらうこともある。何も話さない障がい者でもルーティンがあり、この家の門の前で立ち止まる。ただ立ち止まるだけだが、外から見ると、『立小便しているように見える』と言われたことがある。でも中の人は、『そういうことはしていないと充分わかっている』と言っている。コミュニケーションを取って理解してもらうのも一つである。声をかけた

令和3年度第1回防災プロジェクト会議

りかけられたりするは、障がい者にとって必要。地域の一人と思って頂くためにも、職員も積極的に地域の人に挨拶をしたり、一緒に連れて総会に出るなどしている。障がい者がいて当たり前なのが理想である。悪いことでも直に言ってもらえると良い。

- ・(社福) 野百合園相談支援事業所まゆみ

野百合祭りについては、コロナの影響で園だけでお祭りを行った。1年前までは、地域の方を呼んで行っていた。野百合園の方では、地域の大掃除に出られる利用者を募って一緒に行ったり、グループホームでは、どんど焼きに参加する。グループホームの方が地域との関わりがある。

- ・障がい福祉課

グループホームは、自治会に気を遣っていかないと運営できないところもあり、住まいなので積極的に地域と繋がり、防災訓練に参加していると言うのが見えてきた。障がい者については、地域の方に来てもらうことはあるが、こちらから行くことはなかなかないようである。

- ・(特非) ゆうかり障害者地域活動支援センターレザミ工芸

交流といえば、ケアセンターあさひだけである。10月のお祭りに、呼ばれて行くが、自治会のお誘いはない。

- ・社会福祉協議会

今後の課題として、グループホームは、繋がりがあるということで、切らさず続けていただき、事業所だと繋がるところが弱いので、今後情報提供して頂いた中で繋がりを作っていくことが、今後やるべきことである。

- ・厚木市障がい者基幹相談支援センター

個人で暮らしている障がい者が、自治会に入ったり、防災訓練に参加したりするのは、ハードルが高いし、自治会や地域の住民も障がい者にどう接したら良いかわからないと言われてしまうので、まずは、民生委員に障がい者を紹介し、徐々に障がい者を知ってもらいながら、自治会、地域の方と繋がってもらおうと良いと思うのだが、自治会に興味のある方がいたら民生委員を通して、お話するのはできるのか。

- ・民生委員・児童委員

できる。地域としては、自治会加入率 100%である。横の顔の繋がりはある。何かあった時に、受け入れたいが、どこまでお手伝いできるのかが、大きな課題である。それと気になるのが、精神疾患の重い方が何人かいて、こちらから声をかけると『私はいいいよ』と言っておきながら、何かあると『助けてくれない』と言う。他の方も行動的に目立つ方がいると皆、敬遠してしまい、民生委員に話が来る。個人的には、訪問することも何も思っていないし、できればそういう方がどういう状態で生活しているのか、わかりたい。地域として何かできることはないかと思っている。民生委員は、訪問するマニュアルがなく、どこまで入って行っているかわからない。高齢者は『どうですか』とすぐ簡単に入っていけるが、障がい者に同じように訪問しても何も言われない時がある。

- ・厚木市障がい者基幹相談支援センター

そういう人もいるかも知れないが、例えば、少数でも、相談支援の我々が、関わっている人で『自治会に入ってみてもいいよ』と言う方もいるので、民生委員との間に入って繋がりたいと思う。この地域にこういう方がいると紹介したい。知っていてもらうだけで、ありがたい。

- ・民生委員・児童委員

会ったこともない人もいるので、会えるのなら、会って話がしたいし、情報が欲しい。障がい者は、障がい福祉課や事業所など福祉関係とは繋がりがあるが、以外と地域とは接点がない。

- ・厚木市障がい者基幹相談支援センター

令和3年度第1回防災プロジェクト会議

支援者側から接点を作るということである。民生委員が知っていれば、地域の受け入れ方も違ってくると思うので、事業所連絡会で伝えて行きたい。

・障がい福祉課

来年の取り組みとして、以前行ったような当事者を招いて話を聞く研修会だったら、蔓延防止や緊急事態宣言が出ている時は、**やるとしてもZOOMでしかできないが**、ないときには、集合できそうである。参加型の研修会を行ってみたいが、グループワークはどうかと思うので、防災に関して顕著ある方をお呼びするのが取り組みやすいかも知れない。防災マニュアルの見直しや厚木市のバスをチャーターして委員の研修として、立川にある東京消防館の見学などはどうか。他に課題は、あるか。

・あつぎ災害ボランティアネットワーク

エリアメールが厚木市内でも地域によっては、全く入らない事があった。通信手段が取れなくて、海底ケーブルが切られたのではないかということで、現地の状況が全く読めない。携帯電話があり、モバイルバッテリーあればというが、基地局が遮断されるなど根本的なことも考えなければならない。

・厚木市社会福祉協議会

障がい者の災害がある中での通信手段について話し合ったことはあるのか。コロナ禍の中で**考えられる通信手段はあるか。**

・障がい福祉課

個人だと携帯電話以外通信手段は考えにくい。

・民生委員・児童委員

避難行動が出てしまうと、携帯なりっぱなし。電話なりっぱなし。連絡もしっぱなしである。連絡しても本人に繋がらない。目の不自由な方に、大丈夫かメールを打つが、電話をくれなかったと言われる。安否確認をしても電話に出てもらえなければ、アウトである。気にかけてもらえる人が何人かいれば慌てることはない。こういう場合、高齢者が主体になる。日ごろ接点のない障がい者だと外れてしまう。避難行動要支援計画は、等級から外れている障がい者もいるので、障がい者がパニックになった時にどう対応していいかわからない。

・厚木市障がい者基幹相談支援センター

チェックリストを民生委員も持っている、どう対応したら良いかわかる。

・民生委員・児童委員

チェックリストを本人が持つだけでなく、自治体に預けてもらうのも手立てかも知れない。

・障がい福祉課

良い事だと思うが、個人情報の壁があり、結構ハードルが高い。避難行動要支者も法律に定められているから、あそこまでできる。**避難行動要支援者名簿の登録対象**外の障がい者の個人情報の共有は難しい。

・厚木市社会福祉協議会

来年度については、有事の際、避難行動要支援者名簿の対象にならない障がい者、要配慮者**についての対応も課題の1つ**として協議をし、できるのであれば、研修を考えていく。

議事進行 厚木市社会福祉協議会 ⇒総合司会 障がい者基幹相談支援センター

(5) その他

・情報提供 厚木市障害者地域生活サポート事業

以 上